

各 位

会 社 名 株式会社 TWOSTONE&Sons
代表者名 代表取締役 CEO 河端 保志
(コード番号: 7352 東証グロース)
問合せ先 取締役 CFO 経営戦略本部長 加藤 真
(TEL. 03-6416-0057)

TWOSTONE&Sons グループの株式会社 Layer8 との業務提携および サイバーセキュリティ領域への参入のお知らせ

株式会社 TWOSTONE&Sons (以下 TWOSTONE&Sons) の新グループ会社である株式会社 TWOSTONE Sync (本社: 東京都渋谷区、代表取締役 CEO: 宮崎 晃成、以下 TWOSTONE Sync) は、AI を活用した Web セキュリティ技術を開発する株式会社 Layer8 (本社: 東京都港区、代表取締役: 岡本 拓将、以下 Layer8) と業務提携し、サイバーセキュリティ領域参入における第一弾のサービスとして、Web アプリケーション・API 向けペネトレーションテスト (※1) を提供開始いたします。

記

Layer8 は、IPA (独立行政法人情報処理推進機構) の「未踏アドバンス事業」に採択された AI セキュリティ技術の開発を手がける岡本 拓将氏・阿部 竜也氏が共同創業したスタートアップ企業です。AI による脆弱性探索・検証を通じ、累計 8,000 件以上のレポートを生成、HackerOne VDP 部門・Individual ランキング世界 1 位 (2026 年第 3 四半期) (※2) などの実績を持ち、Layer8 のペネトレーションテストは、AI エージェントが攻撃者の視点で攻撃経路を探索し、セキュリティエンジニアが再現検証する「AI と人」による検証が特長です。AI の進化やシステムの変化が速まるなか、年 1 回の診断では検証が追いつかなくなっていくます。弱点を毎月確かめ続けることで、企業が安心して AI 活用を次の段階へ進められるよう支援してまいります。

1. 背景

①AI を使う企業が増えるほど、AI を使った攻撃も広がる

IPA (情報処理推進機構) の「『情報セキュリティ 10 大脅威 2026』解説書 [組織編]」では、「AI の利用をめぐるサイバーリスク」が初選出で第 3 位、「システムの脆弱性を悪用した攻撃」が第 4 位に位置づけられています (※3)。リスクは AI を使う側だけではありません。警察庁は、生成 AI を悪用し約 724 万件の不正な指令を送信し会員情報を漏えいさせた事案を挙げ、AI で自動化したサイバー攻撃の増加や攻撃者の裾野の広がりを指摘しています (※4)。攻撃側が AI を使う時代には、守る側の検証にも AI の速さと広さが求められます。

②変化のたびに新たな弱点が生まれる一方、検証は年 1 回にとどまりがち

AI を組み込んだシステムは導入後も更新や仕様変更が続き、そのたびに新たな脆弱性が生まれる可能性があります。一方、サイバーセキュリティ人材は国内で約 11 万人不足しているとされ (※5)、ペネトレーションテストは年 1 回程度にとどまる企業が少なくありません。TWOSTONE Sync は、AX 支援の一環とし

て「AI と人」による検証を毎月続け、見つかった弱点の修正まで支える体制を整えることが、AI 活用を安心して次の段階へ進める鍵になると考えています。

2. 提携内容

TWOSTONE Sync は AX 支援事業として、企業の AI 活用を開発から導入・定着まで支援しています。本提携により、AI の導入をご検討・実施中の企業へペネトレーションテストをご案内し、開発・導入から攻撃者視点の検証、そして見つかった弱点の修正までを、ひとつの窓口でご支援します。

①AI と人で確かめる

AI エージェントが攻撃者の視点で侵入経路を幅広く探索し、セキュリティエンジニアによる再現検証で確かさを担保。確認できた脆弱性のみを証拠付きで報告します。診断は対象外通信の遮断や危険操作の制限など、厳密な管理のもとで実施されます。

②年 1 回ではなく、毎月確かめる

AI エージェントによる探索で検証の負荷を抑えられるため、年 1 回程度が一般的だったペネトレーションテストを毎月実施（月 1 回の診断＋指摘事項の修正確認 1 回）し、AI の進化やシステムの変化に合わせて守りを更新し続けられます。

③見つけて終わりにしない。修正に必要なエンジニアリソースまでご支援

脆弱性が見つかって、修正に割ける人手が足りず対応が滞ることは少なくありません。TWOSTONE Sync は、TWOSTONE&Sons グループのエンジニアプラットフォーム事業で培ったエンジニアネットワークを活かし、検証結果をもとにした修正・改善に必要な場合には、そのためのエンジニアリソースの提供も併せてご支援します。AX 支援と組み合わせることで、開発・導入の効果を安心して事業に活かし続けられる体制を整えます。

3. 代表者コメント

株式会社 Layer8 代表取締役 岡本 拓将氏

システムが日々変化するなか、脆弱性の検証も継続して行えることが重要だと考えています。Layer8 は、AI を活用することで、これまで頻度や費用の面で難しかった継続的な検証を広げていきます。今回、TWOSTONE Sync の顧客支援体制やエンジニアネットワークと連携し、脆弱性の発見を実際の改善につなげる支援を、両社で形にしてまいります。

株式会社 TWOSTONE Sync 代表取締役 CEO 宮崎 晃成

利益を生む戦略には、それを支える守りが要ります。セキュリティの検証が年に一度では、変化の速いシステムに判断が追いつきません。当社は Security を重点領域の一つに置き、Layer8 の AI と人による検証を毎月続け、見つかった弱点は修正まで伴走することで、お客様が安心して AI 活用を成果に変えていけるよう、両社で取り組んでまいります。

4. 株式会社 Layer8 について

8,000件+

AIによる脆弱性探索・検証
によるレポート生成数

世界1位

HackerOne VDPランキング
(2026年第3四半期) ^(※1)

16件

米国防総省で正当な脆弱性報告として
受理された脆弱性発見数

株式会社 Layer8 は、Web アプリケーションおよび API 向けのペネトレーションテストに特化した AI セキュリティ企業。自社開発の AI エージェントとセキュリティエンジニアを組み合わせ、攻撃者視点での脆弱性検証を継続的に行う「Layer8 Trident」を展開。AI による検証結果はエンジニアが再現・確認し、影響範囲や修正方法まで報告する。IPA「未踏アドバンスト」出身の技術力を背景に、AI とセキュリティ研究開発の両面から事業を推進している。

<https://layer8.jp/>

代表取締役 岡本 拓将氏



京都大学経済学部卒業。ソニー株式会社で経営企画、株式会社ディー・エヌ・エーで大規模 Web サービスの開発を経験。2025 年度 IPA 未踏アドバンスト事業に採択され、AI ペネトレーションテストの研究開発に取り組む。株式会社 Layer8 を共同創業し、AI エージェント「Trident」を共同開発。Trident を活用した活動で、HackerOne の 2026 年第 3 四半期 VDP ランキング世界 1 位を獲得した。経営と技術の両面の経験を生かし、AI による脆弱性診断の普及・拡大を推進している。

※1：ペネトレーションテスト...攻撃者の視点でシステムへの侵入を試み、実際に悪用できる弱点を洗い出す検証。「侵入テスト」とも呼ばれます。

※2：Individual 部門、l8_trident の実績

※3：IPA（独立行政法人情報処理推進機構）の『『情報セキュリティ 10 大脅威 2026』解説書 [組織編]』（https://www.ipa.go.jp/security/10threats/omgdg50000008fi8-att/kaisetsu_2026_soshiki.pdf）より

※4：警察庁「『令和 7 年におけるサイバー空間をめぐる脅威の情勢等』（2026 年 3 月）」（https://www.npa.go.jp/publications/statistics/cybersecurity/data/R7/R07_cyber_jousei.pdf）より

※5：経済産業省「サイバーセキュリティ人材の育成促進に向けた検討会」最終取りまとめ（2025 年 5 月）（<https://www.meti.go.jp/files/900017551.pdf>）にて引用される民間調査（2023 年）に基づく推計

以 上